

幸福の赤いサクランボ



今年も、1年で最もいそがしく、すべてのことに最大限、神経を使わなければならぬサクランボの収穫時期が到来した。

主力品種の佐藤錦は、例年に比べると1週間ほど早い14日から収穫を始めた。私の農園では、収穫したサクランボを、注文をいただいた全国のお客様に直接、販売する割合が9割を超えている。

6月に入ってからには、各品種ごとはもちろん、同じ品種でも品質のラ



サクランボの箱詰め作業。収穫から選別、箱詰め、発送とすべて1日で行う。山辺町

多田耕太郎 1954年山辺町生まれ。金山町のスリッパ工場を経て、41歳で就農。2009年に法人化し、2・7畝のサクランボ園を経営する。

データによる業務管理めざして

リンクごとに商品として出せる予想収穫量に細心の注意を払う。お客様にいただいた注文数と、実際に収穫できる量とのバランスが取れるかどうかが大変だからだ。毎日、昼夜を問わず園地を見回り、日ごとに集計した注文数と比較し検討する作業を続ける。

それに加えて、収穫期までの天気予報を頭に入れながら、余分な実や葉を間引く摘果や摘葉、病害虫の防除といった作業を進める。収穫するサクランボを最良の状態に持つていくために、それぞれの作業者への指導や段取りも並行して行わなければならない。

これらすべてについて、私はこれまで経験と勘を頼りに手探りの状態で進めてきたようなものだった。振り返ってみると、サクランボをつくり始めてから20年、この時期は期待と不安が入り交じり、とても不安定な気持ちになることがあった。結果的に大方は良い方向に実ってくれたが、運がよかったただけだと思う。思い出すと冷や汗をかくことがたくさんある。

そんなこともあって、昨年からは若手社員の力を借り、パソコンを駆使した業務管理に取り組んでいる。摘果や肥料散布、収穫など季節ごとの作業を、いつ、どれくらいの時間をかけて行ったかなどの情報を集める。少なくとも3年分はデータ化し、今後に役立てたい。将来、農園を若手に託し、園地を拡大していくためにも必要だと考えている。